

質問対象	質問	回答
附属国際中等教育学校	ISS図書館について：ご発表ありがとうございました。本活動に使われた資料はどれくらいが元々あって、どれくらい地域の図書館から借りられたのでしょうか。	学校の蔵書からは92冊、公共図書館の団体貸し出しから97冊の計189冊を資料提供しました。今回は教科の連携ごとに増やしていきましたので、理科との連携段階では約150冊、美術との連携が始まってから追加で40冊増やし、最終的に約190冊になりました。（司書：渡邊）
附属国際中等教育学校	ISS図書館について：展示をする際に生徒自身が飾りつけに加わることはあったのでしょうか。	授業の成果物を展示する場合、司書が教員から依頼されておこなうケースと、授業内で生徒がおこなうケース、または司書と図書委員がおこなうケースの3通りがあります。今回のポケモン展示は司書が陸、空、海の各エリアをつくり、松ぼっくりや貝殻など細かい展示部分は生徒に手伝ってもらいました。（司書：渡邊）
附属国際中等教育学校	ISSについて：異教科担当者が意見交換をする場合は定期的に求められているのでしょうか。また、いかにして他教科の学習内容や進捗状況などを先生方は把握しているのでしょうか。	本校では、同学年を担当する異教科の教員で研究グループを設定しており、月に1回の校内研究会を設けています。また、各学年各教科の学習内容を廊下に一覧にして掲示しているため、学習内容を知るきっかけになっています。私自身は、学級日誌や会話を通して、生徒から知る機会も多いです。概念的な学習をしていると、生徒自身が横断的な視点で学びを捉えられるようになってくるので、生徒から学ぶことも多くあります。また、図書館に展示されている授業の作品や、カートに集められている図書資料から、他教科のようすを窺い知ることもあります。生徒や教員との会話に見つかるつながりに、教科等横断のヒントをもらっています。（理科：川上）
附属特別支援学校	特別支援学校図書館について：特別支援学校ならではの図書の悩み、図書館の悩み等がありますでしょうか。また、最近の流行りなどがあればご共有ください。	悩みについては、報告でお話しした通りです。小学部低学年での流行は、音の出る本です。低学年の実態としては、文字の理解に難しさのあるが故に大人が読み聞かせをすることが有効であったり、音の出る本は、音＝直接的な感覚刺激として、ダイレクトに面白がっていると感ずります。一方で、児童なりに絵が好きなお本もあるので、一概に全員が音の出る絵本が好きというわけではないですが、仕掛け絵本なども一般的な絵本に比べて読んで印象です。
附属特別支援学校	カーリルで蔵書を管理されているとのことですが、それについてもう少し詳しくどのように活用されていますか教えてください。	学校図書館支援プログラムに参加し、蔵書の検索をインターネット上でできるようにしています。検索ページはリンクをQRコードなどで、ポスターやお便りを通じて共有しています

<p>附属特別支援学校</p>	<p>特別支援学校図書館について：専属の図書館がないことは他の特別支援学校においても同様な問題なのでしょうか。特別支援学校に通う子どもたちこそ、より丁寧で密な人間関係形成が必要だと考えますのに、司書が時たましか出勤できないのは残念に思います。</p>	<p>大変残念なことです。特別支援学校の現状は、お話した通りです。全国的にも司書の配置が少ないことは、新聞等で報道されていましたし、野口先生のコメントにもありました。</p>
<p>附属特別支援学校</p>	<p>特別支援学校の取組への質問です。絵本をデジタル加工し授業以外の保存利用は特別支援学校の生徒利用であれば著作権は気にしなくても大丈夫ですか？出版社への申請は必要なのでしょうか？その際、許可が得られなかった例などありましたら、教えて下さい。</p>	<p>野口先生の解説通りです。</p>
<p>附属特別支援学校</p>	<p>先ほどの質問は野口先生の講評が解決してくれました。それを踏まえてさらに質問です。特別支援の生徒への学校図書館のサービスの一環であれば、学校司書がデジタル加工など諸々のサービスを行うことも大丈夫なのでしょうか？</p>	<p>著作権法37条3項により、学校図書館として複製が可能です。詳しくはJLAのガイドラインをご覧ください。 https://www.jla.or.jp/library/gudeline/tabid/865/Default.aspx また今回は授業のなかでの絵本の使用でしたので、先生が主体であるような加工が許されたということになります。</p>